



株式会社タムラ製作所

2007年3月期 中間決算概要

2006年11月10日



目次



- 1. 2007年3月期中間決算概要**
- 2. 2007年3月期通期業績予想**

1. 2007年3月期中間決算概要

ハイライト(要約損益計算書)



単位: 百万円

	05上	06上	対前年同期比較	
			増減	率
売上高	38,118	40,189	2,070	5.4%
営業利益	1,797	2,245	447	24.9%
営業外損益	-60	-198	-138	
経常利益	1,737	2,047	310	17.8%
特別損益	-163	-804	-641	
税引前利益	1,574	1,242	-331	-21.0%
中間純利益	660	833	172	26.1%

06上 期中平均実績為替レート : \$1= 115 円 38銭

06上 期中平均社内為替レート : \$1= 114 円 18銭

■ 売上高は、新製品の投入やプロダクトミックスの改善も進み、堅調な推移のもと増収

■ 構造改革などによる業務の効率化も効果があらわれ、営業利益は大幅に増益

■ 当社製品における、重要な品質問題の発生に伴い、製品補償引当金繰入額の計上もあり、特別損失は増額

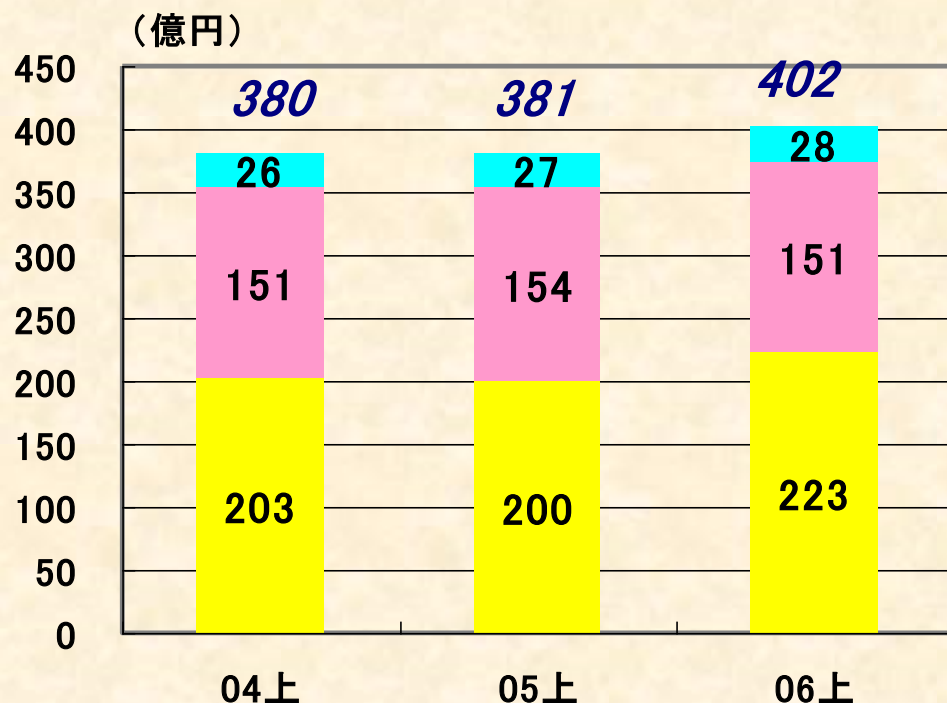
■ 税金費用の減少等により、中間純利益も大幅に改善し増益

事業部門別の売上高・利益推移

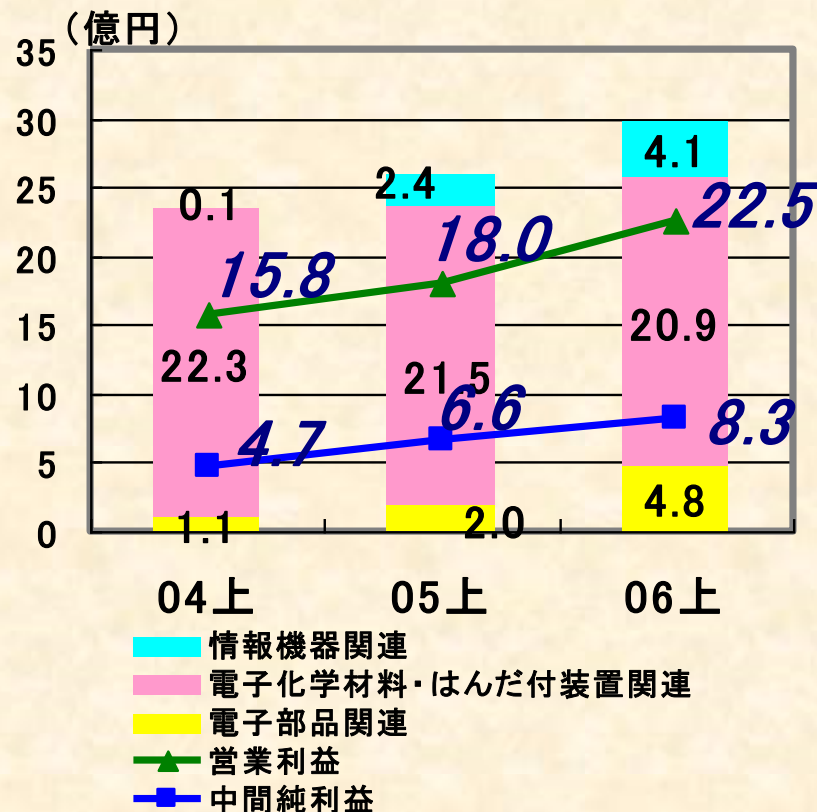


電子部品事業・情報機器事業の大幅な収益改善もあり、
全事業セグメントとも、売上・利益が堅調に推移

【売上高】



【営業利益(中間純利益)】

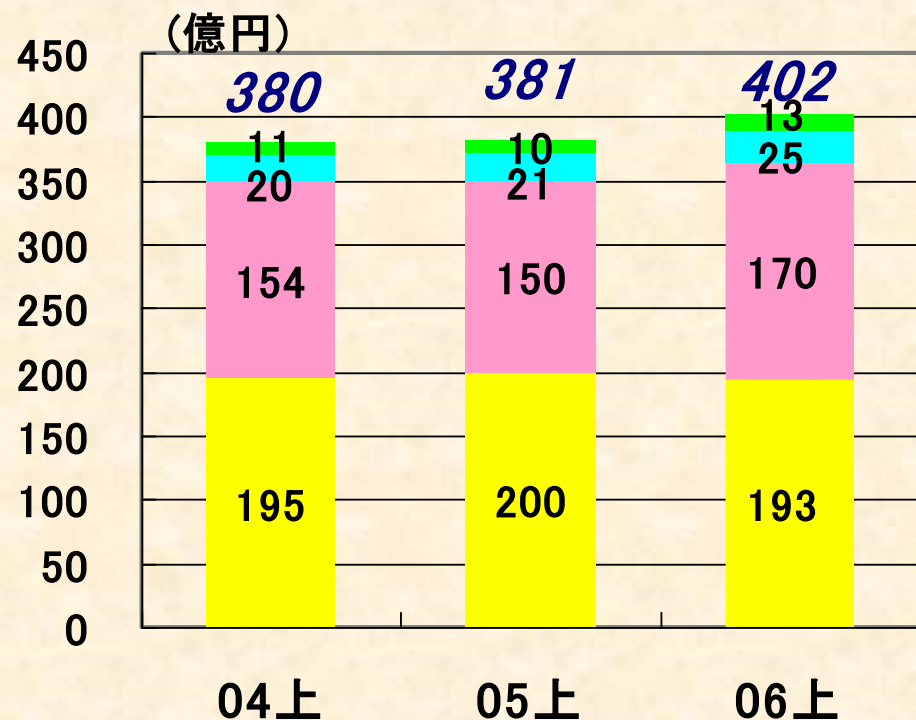


地域別の売上高・利益推移

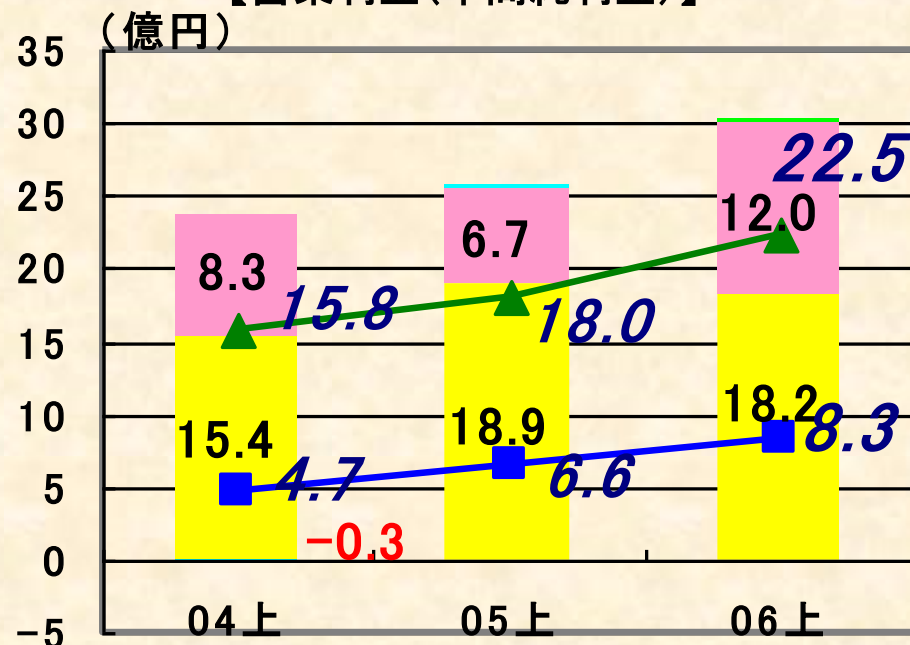


日本はやや低調に推移するも、アジアは大幅に収益を改善

【売上高】



【営業利益(中間純利益)】



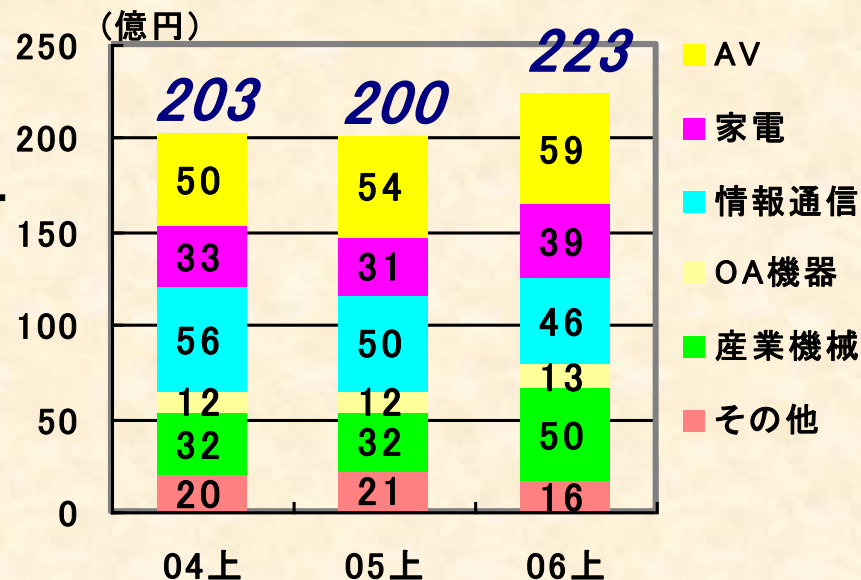
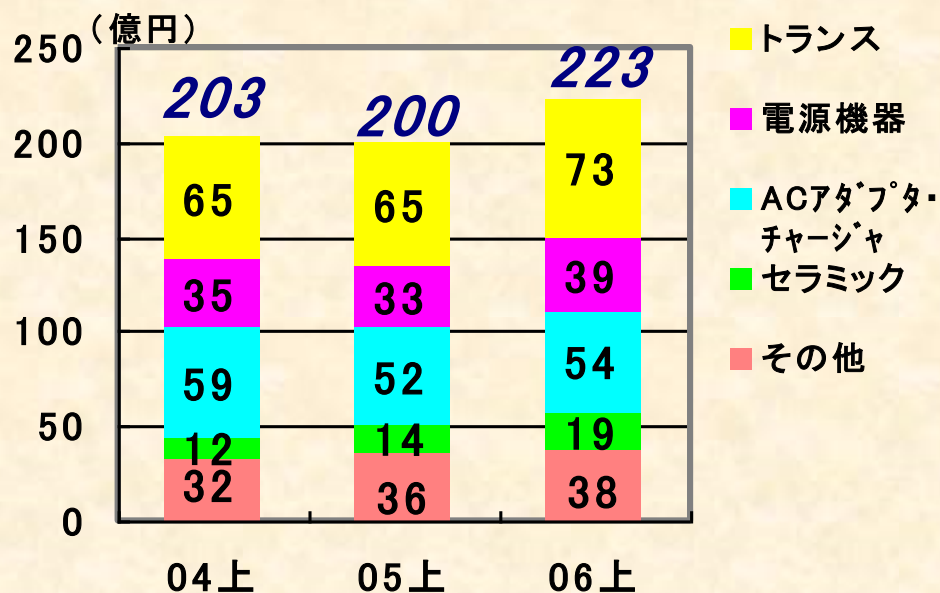
■ 日本
■ ヨーロッパ
▲ 営業利益

■ アジア
■ 南北アメリカ
■ 中間純利益

電子部品事業の売上高推移



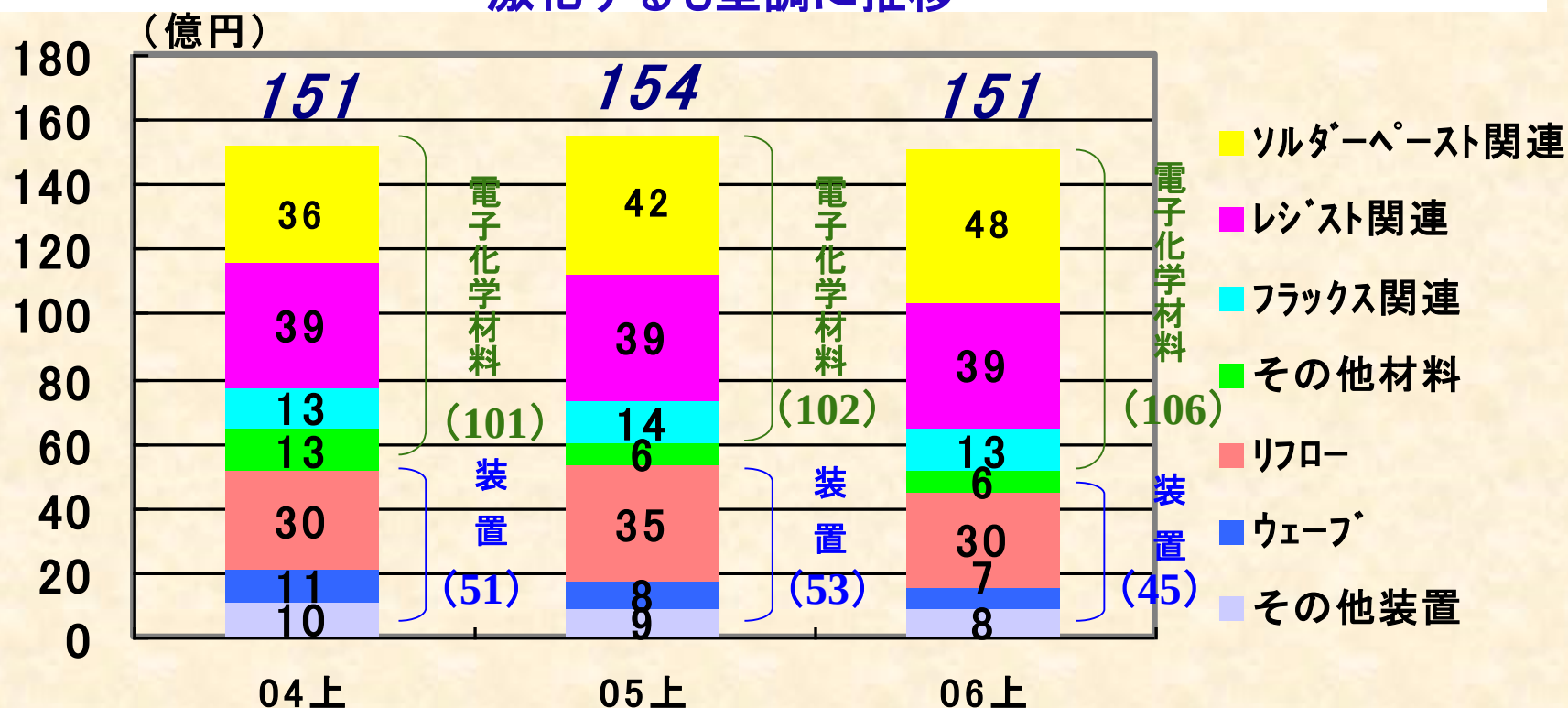
設備投資の増加などを背景にNC・工作機械を中心とした産業機器向け部品は引き続き好調に推移、また、戦略事業であるセラミック製品も液晶バックライト用インバータやOA機器向け圧電トランスなど堅調に推移



電子化学材料・はんだ付装置事業 の売上高推移



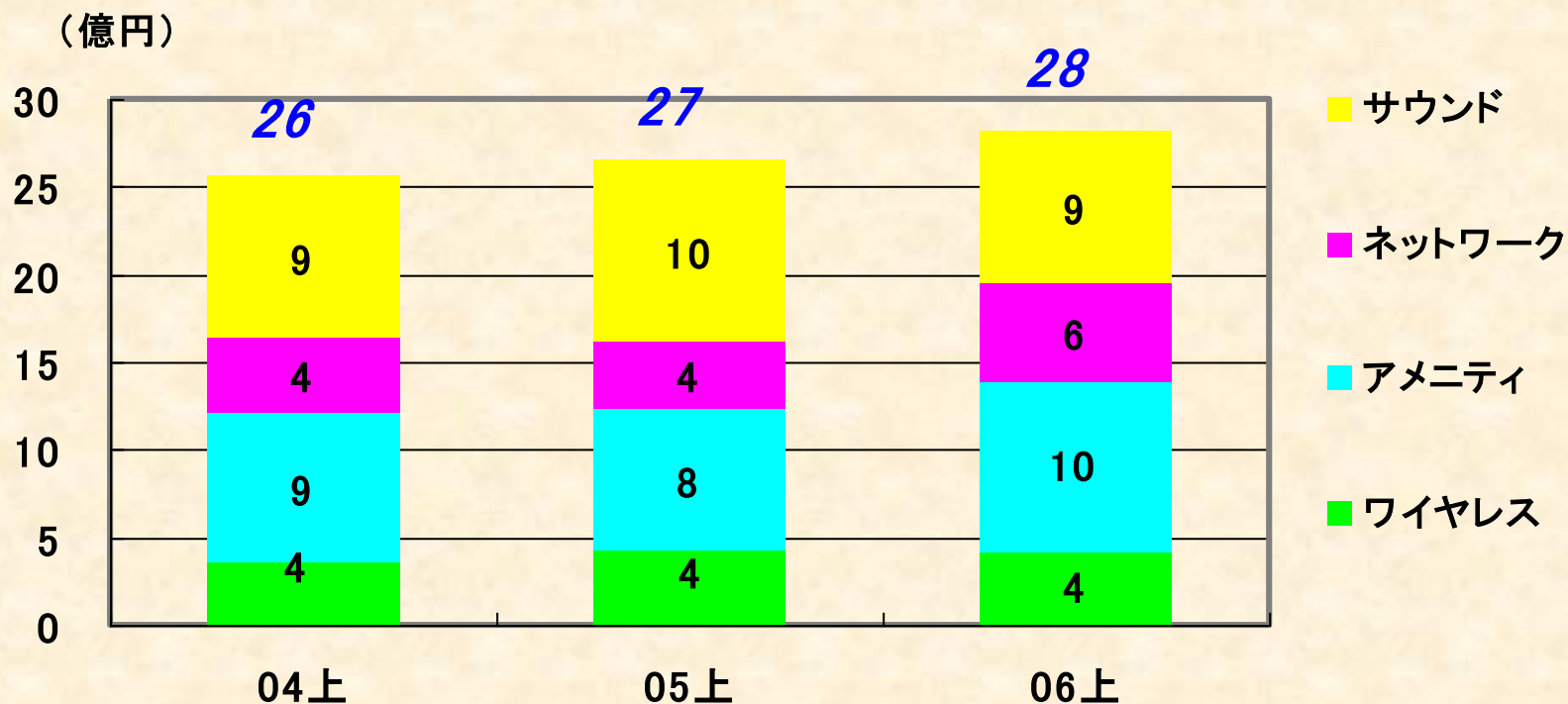
はんだ付装置は、国内市場が鉛フリーの一巡感による鈍化、海外展開は進みつつも価格競争など厳しい市場環境もあり、やや低調に推移。
また、電子化学材料においては、プリント基板材料関係の低価格化はあるものの、引き続き、海外市場における鉛フリー化の進展もあり、競争は激化するも堅調に推移



情報機器事業の売上高推移



放送関連設備における地方局のデジタル化の動きは鈍いものの、通信設備向け監視装置をはじめとするネットワーク関連機器やセキュリティ関連の情報機器が着実に売上に結びつき、堅調に推移



要約貸借対照表



資産圧縮より積極投資へ方向転換

単位: 百万円

	05上	05下	06上	対前年同期 増減
流動資産	52,197	52,390	56,758	4,560
（現預金）	11,236	12,233	12,160	923
（売上債権）	25,671	25,264	28,458	2,787
（棚卸資産）	13,246	12,338	12,912	-333
固定資産	25,781	26,535	25,602	-179
（有形固定資産）	17,247	17,074	16,670	-577
（無形固定資産）	1,027	1,188	1,141	114
（投資、その他）	7,507	8,272	7,790	283
資産合計	77,979	78,925	82,361	4,381
流動負債	29,134	30,418	30,632	1,498
（仕入債務）	12,757	12,875	13,428	670
固定負債	9,182	8,239	11,204	2,022
（有利子負債）	18,417	17,705	19,381	964
負債計	38,316	38,657	41,837	3,520
純資産合計	39,662	40,267	40,524	862
負債純資産合計	77,979	78,925	82,361	4,381

■ 資金調達 銀行借入 30億円
 海外の高金利借入を返済 12億円
 今後の積極投資資金 18億円
 来年以降の追加調達も検討中

（受手割引含む）

*05上・05下の純資産合計は少数株主持分・資本の部の合計

要約キャッシュフロー



新たに資金調達30億円
→積極投資資金
→金融費用削減

単位：百万円

	05上	06上	増減	コメント
営業活動による キャッシュフロー	2,030	-882	-2,913	中国拠点の売上急拡大による売上債権増加
投資活動による キャッシュフロー	-70	-620	-549	積極的投資で支出増加
フリーキャッシュフロー	1,960	-1,502	-3,462	
財務活動による キャッシュフロー	-255	1,459	1,714	本社で銀行借入30億円 海外で高金利借入返済12億円
キャッシュの増減	1,696	-22	-1,719	
キャッシュの残高	11,063	11,992	929	積み増し分は積極投資へ

2. 2007年3月期通期業績予想

ハイライト(損益見通し)



更なる構造改革、プロダクトミックス改善などの
推進による大幅増益を目指す

単位: 百万円

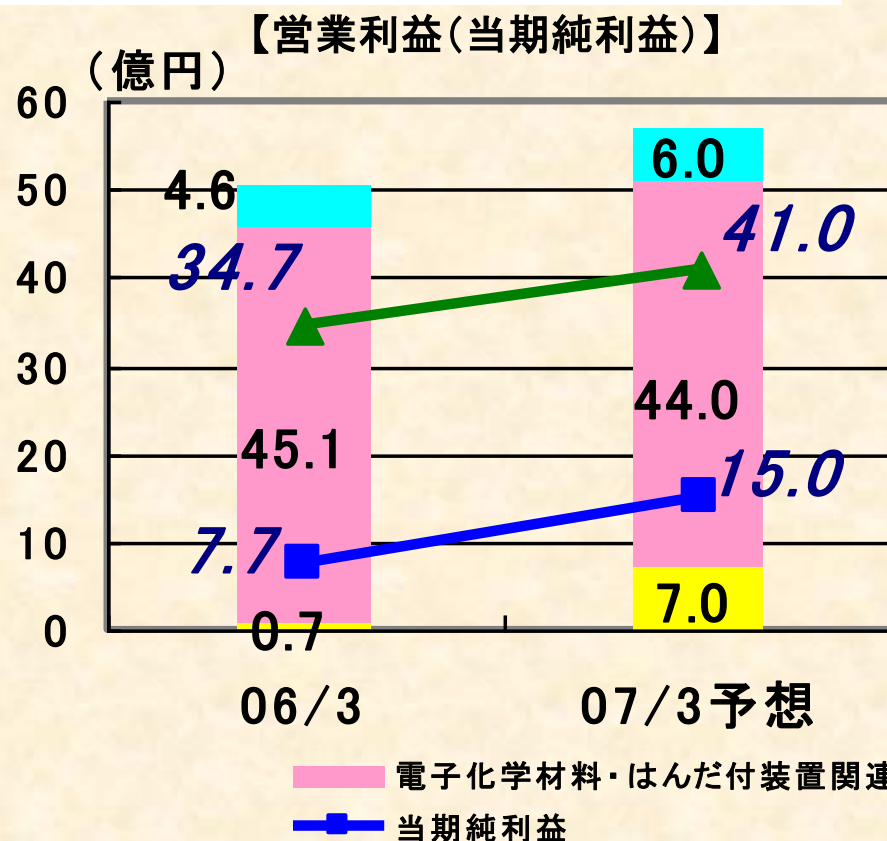
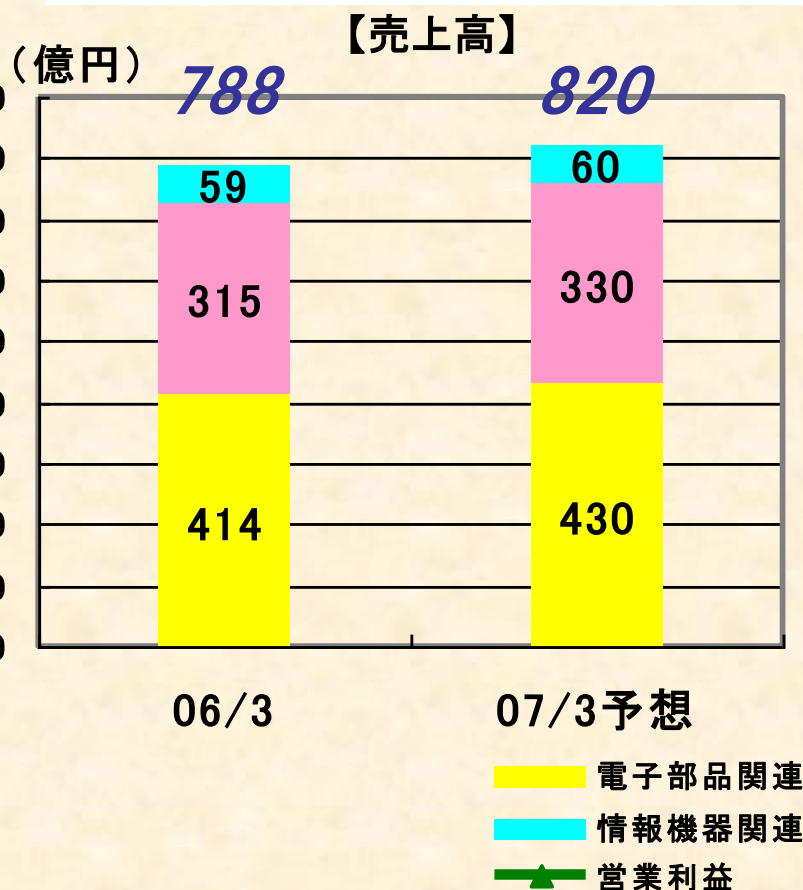
	06/3	07/3 予想	対前期比較	
			増減	率
売上高	78,804	82,000	3,196	4.1%
営業利益	3,471	4,100	629	18.1%
経常利益	3,850	3,500	-350	-9.1%
当期純利益	773	1,500	727	94.0%

06下期 計画為替レート : \$1 = 115円

事業部門別の売上高・利益の見通し



電子部品事業・情報機器事業の大幅な収益改善を背景に
全事業部門による収益向上を目指す



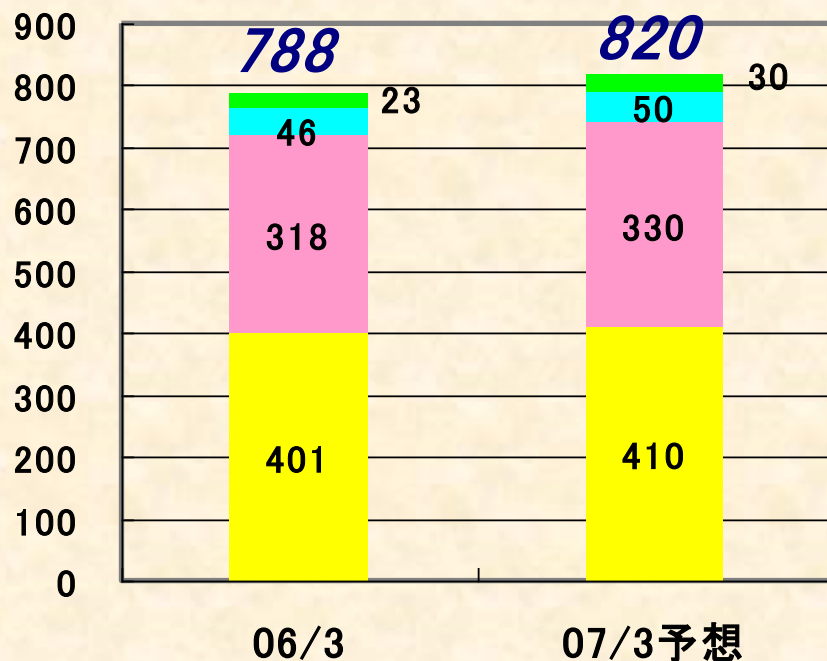
地域別の売上高・利益の見通し



引き続き、アジアは堅調、日本をはじめ欧米エリアも含め、
全地域の収益向上を目指す

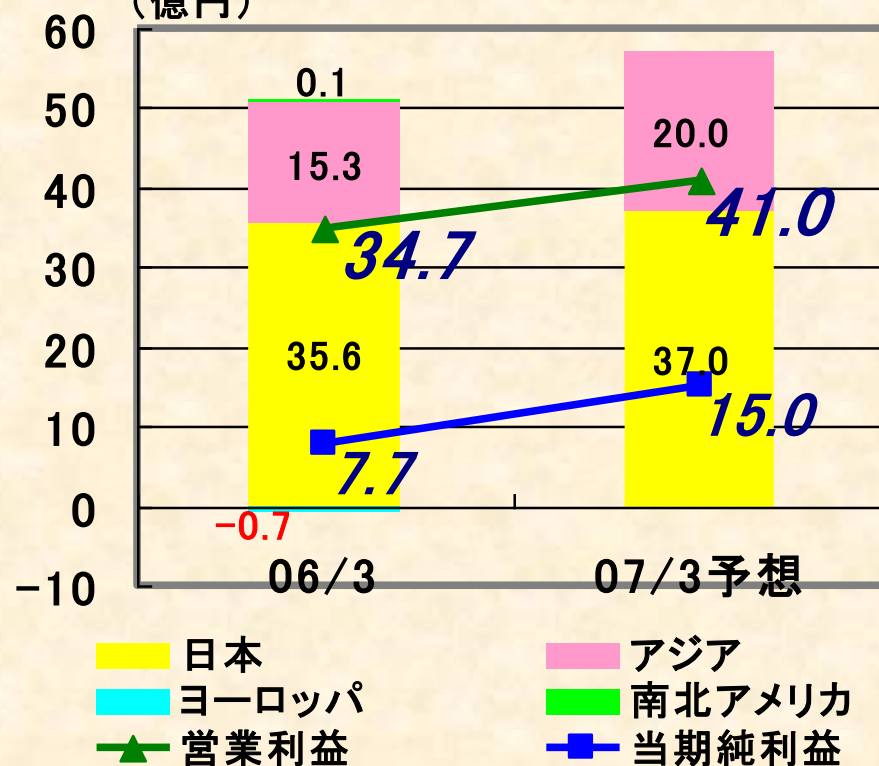
【売上高】

(億円)



【営業利益(当期純利益)】

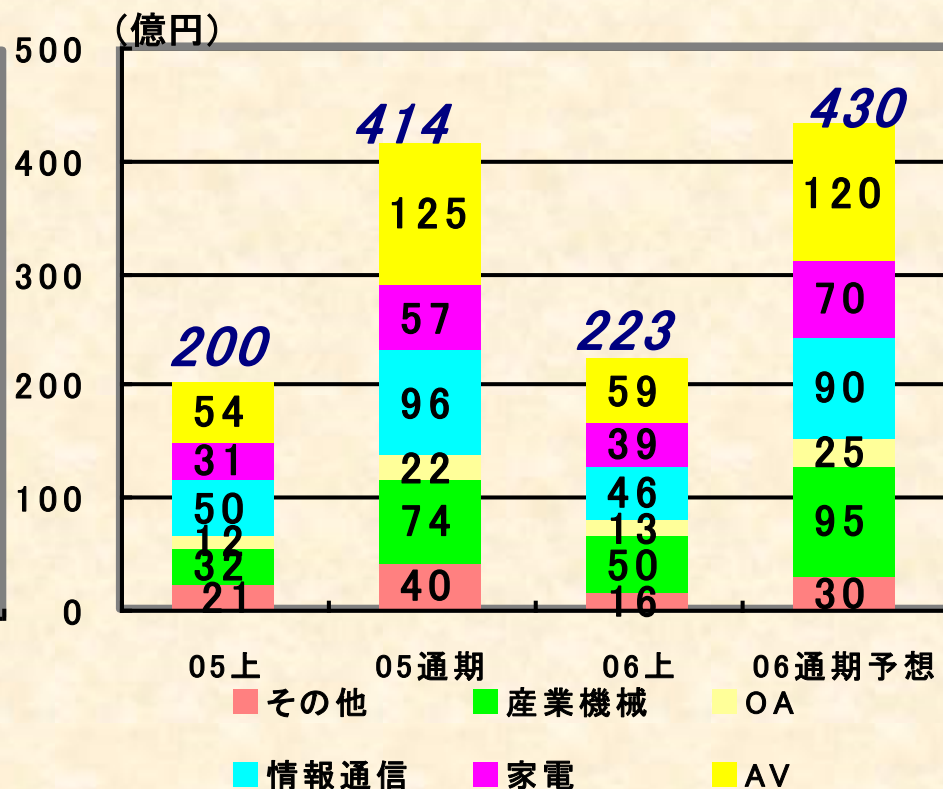
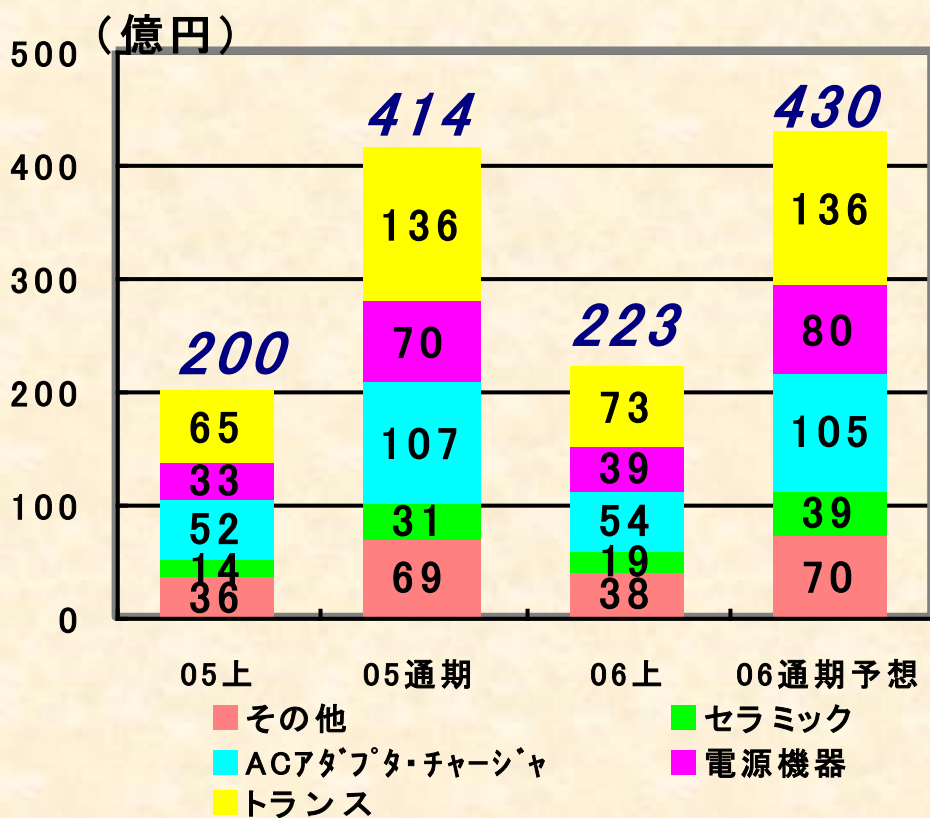
(億円)



電子部品事業



- MAPS活用による更なる連結原価マネジメントの強化と
プロダクトミックスの改善による収益性の向上
- 新規事業展開や戦略事業強化などへ積極的な資源投資を展開

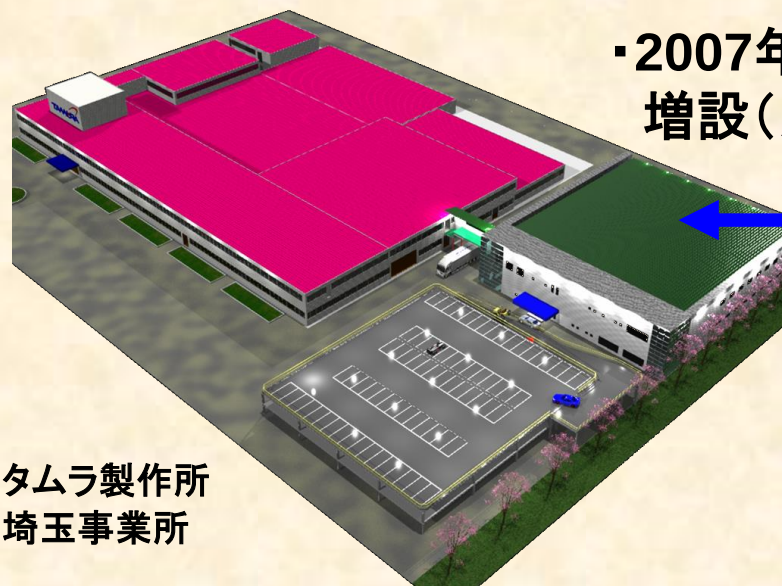


電子部品事業 - トピックス -



・戦略事業である圧電セラミック関連事業、増産体制へ向けた積極投資

・2007年4月埼玉事業所内に圧電セラミック専門工場を増設(月産400万個)し、月産:600万個体制確立へ



タムラ製作所
埼玉事業所

圧電セラミック専門工場(新設)



プリンタ用圧電トランス



液晶パネル用圧電インバータ

・LED関連ベンチャー企業との連携により、
電子部品事業における新たなビジネス展開を開始



・CEATEC2006において、各種のLED照明製品を展示

上段: カラムブライト

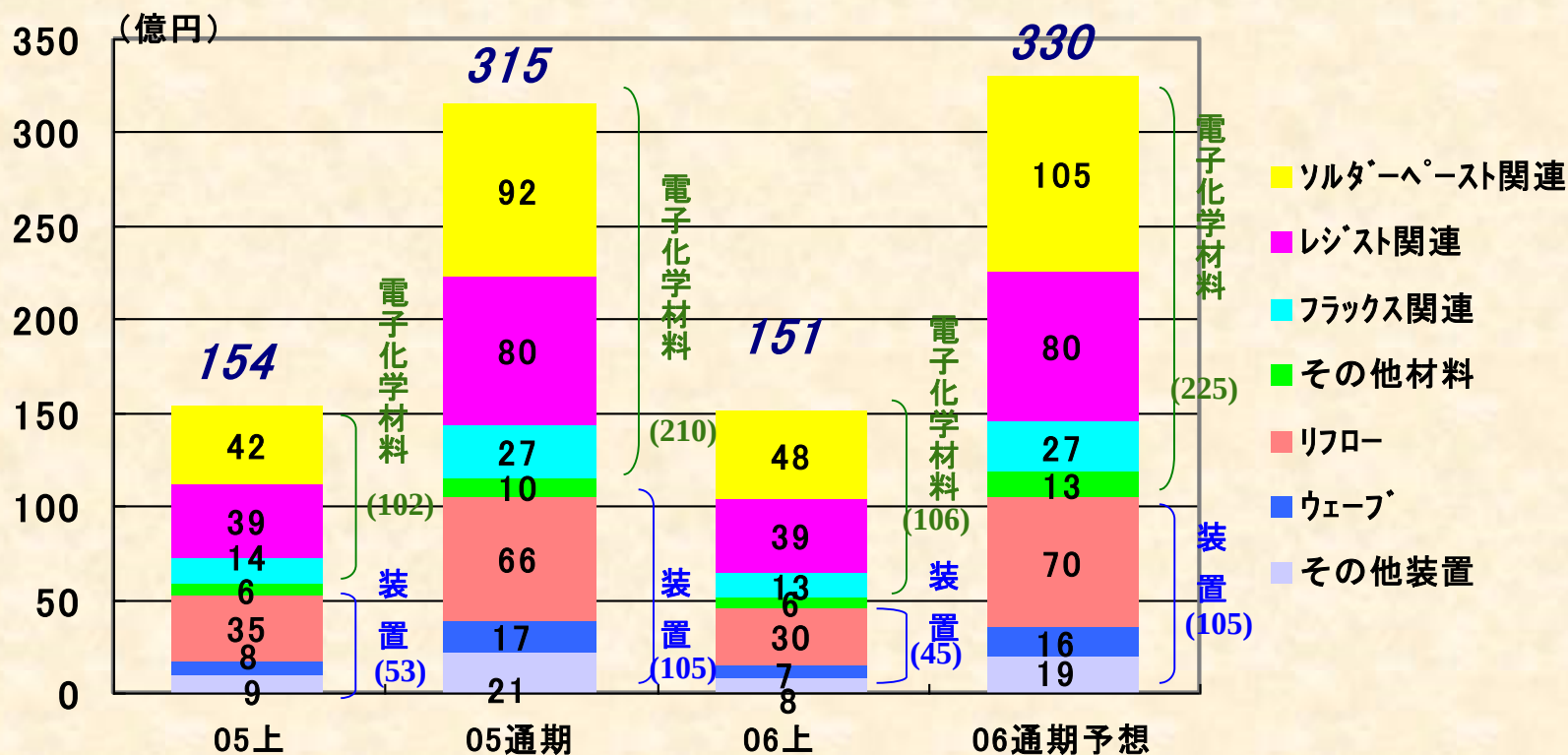
(全方向照射高輝光LEDランプ)

下段: シャインズボール

(電球置き換え用型LEDランプ)

電子化学材料・はんだ付装置事業 TAMURA

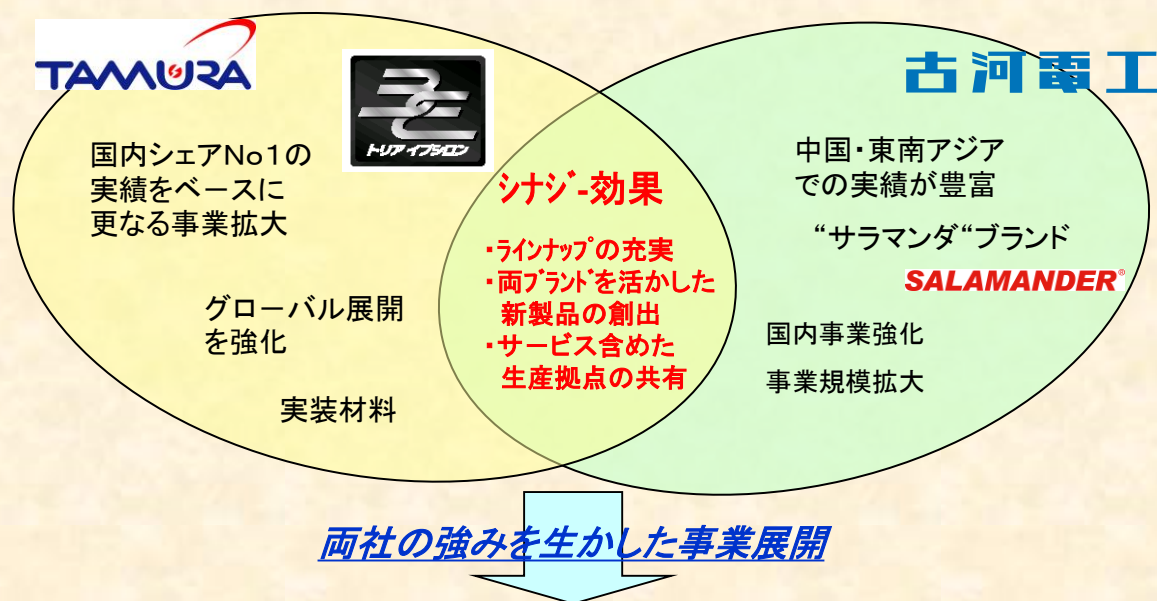
- 進展する「鉛フリー市場」での必勝に向け、新製品投入・
営業力強化による市場でのシェア確保
- 材料～実装技術のトータル・ソリューションを生かした技術革新の促進
- はんだ付装置事業における海外展開強化による更なるシェア拡大



電子化学材料・ はんだ付装置事業 - トピックス -



- ・合併会社(タムラ古河マシナリー)設立により、世界No1の総合はんだ付装置メーカーを目指す



サラマンダ® (SALAMANDER)シリーズ



イプシロン・リフロー・シリーズ

【新製品】

鉛フリー対応

リフローはんだ付装置

「TNX25-307EM」

★世界No1の総合はんだ付け装置メーカーを目指す

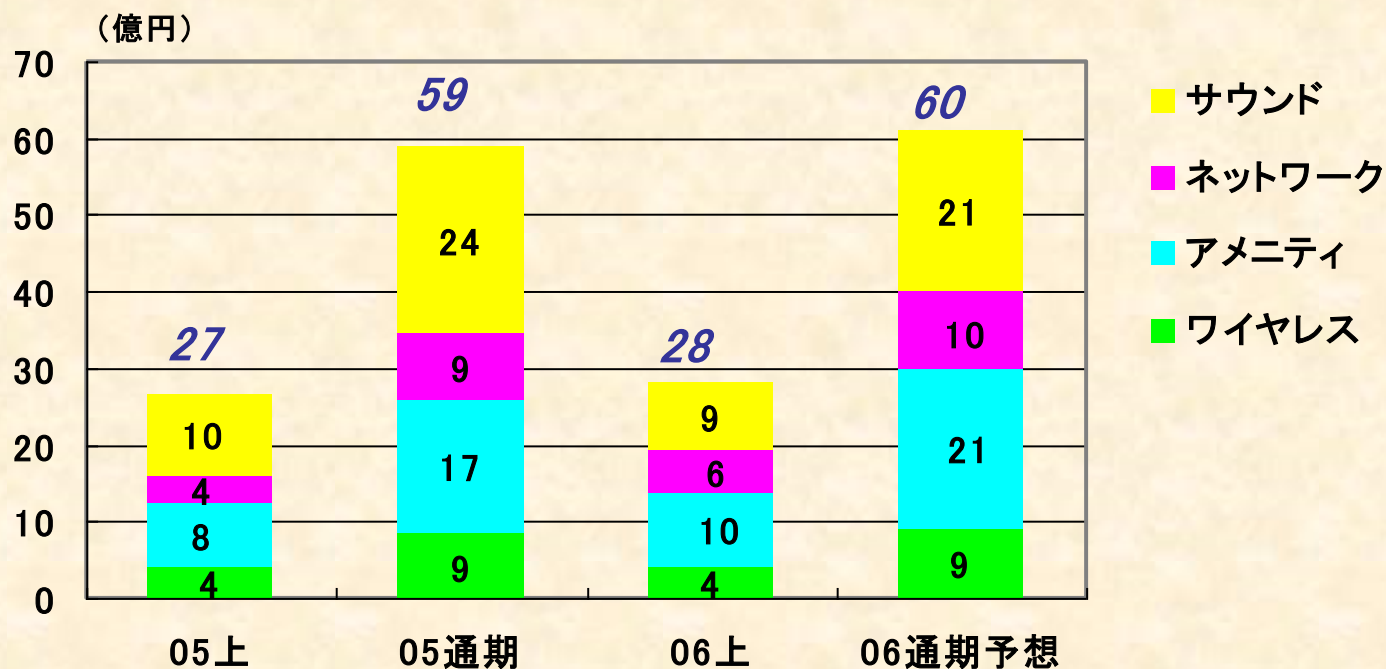
- ・車載市場へ向けた新製品投入を強化

- ①車載用プリント配線板のファイン化に対応した液状ソルダーレジストの投入
- ②ウスカ抑制タイプの鉛フリーはんだ合金の開発

情報機器事業



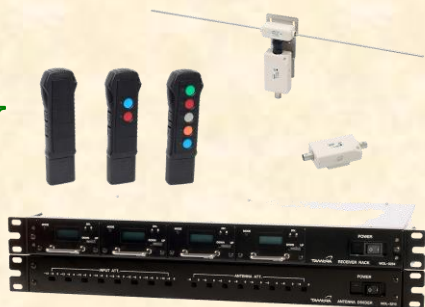
- 更なる事業構造改革による収益の改善と事業基盤の見直し
- 戦略製品 (AMQ5500、AMQ7700) による地上デジタル放送の
地方局展開の推進
- NTT殿向け新監視システムの本格導入によるネットワークインフラ事業
の拡販



情報機器事業 - トピックス -



New
New



- ・新型鉄道用ワイヤレスマイクロホン販売開始し、西武鉄道株式会社殿、東武鉄道株式会社殿へ納入
さらなる拡販・シェア拡大を目指す

- ・今夏発売のデジタル音声調整卓の最高峰AMQ7700を販売開始
株式会社東京放送殿、山口朝日放送株式会社殿へ納入し、株式会社フジテレビジョン殿から大型スタジオ向けに受注を獲得するなど好調に推移
- ・主力製品デジタル音声卓AMQ5500は、引き続き、好調



【株式会社東京放送 殿 AMQ7700】



【山口朝日放送株式会社 殿 AMQ7700】



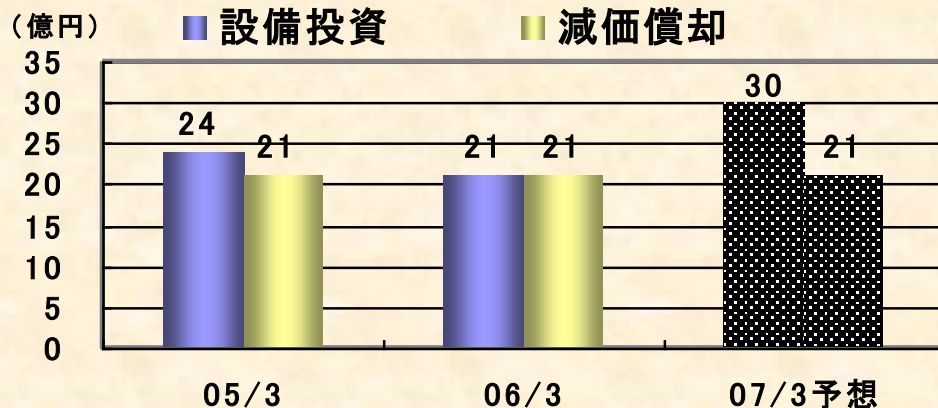
【株式会社文化放送 殿 AMQ5500】



設備・研究開発投資の状況



■ 設備投資・減価償却費

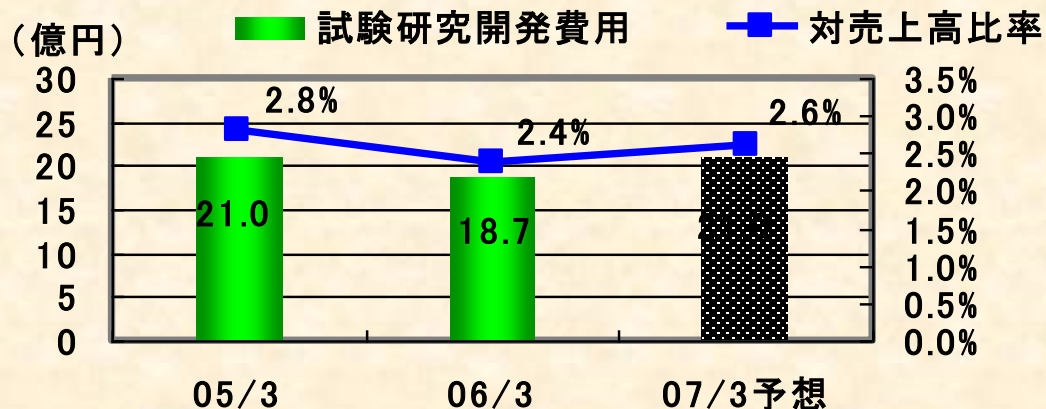


- ・設備投資は、戦略事業などへの積極投資を見込み、当初計画(20億)を大幅に見直す。今回計画:30億円へ変更。

<主な内容>

- ・圧電セラミック事業における増産のための生産設備の増強と工場の新設
- ・その他、生産設備の増強

■ 研究開発関連費用



・選択と集中による開発の効率推進

- ・地方局、海外展開向けデジタル音声機器
- ・磁性材料の新素材開発
- ・セラミック事業の新市場向け材料、製品
- ・車載向け電子部品
- ・鉛フリーをはじめとする各種の環境対応材料・装置の開発
- ・半導体市場向け実装装置、材料の開発

弊社からのお願い

業績等の計画につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、実際の業績等は、市場の変化などにより計画と異なる結果になる可能性もあることをご承知おきください。



Ambitious

Tamura's Only One



The End